

令和 4 年度

# 学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

|   |                   |
|---|-------------------|
| 4 | 十分達成できた           |
| 3 | 達成できた             |
| 2 | 取り組んでいるが、成果は十分でない |
| 1 | 取組が不十分である         |

◎ 評価Ⅲの基準

|   |                     |
|---|---------------------|
| 4 | よく取り組んでおり、成果が大きい    |
| 3 | 熱心に取り組んでおり、今後の期待できる |
| 2 | 取り組んでいるが、成果は十分でない   |
| 1 | 取組が不十分である           |

◎ 評価Ⅳの基準

|   |           |
|---|-----------|
| A | 優れている     |
| B | 適切である     |
| C | おおむね適切である |
| D | 要改善       |

尼 崎 市 立

大 庄 北 中

学 校

# 令和4年度 学校評価

## 【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について]

社会に貢献できる生徒の育成

向上力・共感力・組織力を有する教師集団の形成

### 学校評価の観点

| 1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む  |  | 評価Ⅰ(教職員)  | 評価Ⅱ(校園長) |
|--|--|---|----------|
| (1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び縦のつながりを重視した校種間の連携に努める<br>(2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる<br>(3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る<br>(4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る<br>(5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る    |  | 2.9   | 3        |
| 取組   | 成果   | 課題と改善策  |          |
| ○「授業改善3つの視点」と「協働的探究学習」を同時並行的に推進した。<br>○授業デザインシートの活用を進めた。<br>○「コラボる・タイム」の活用を進めた。<br>○コグトレの成果と検証を実施した。<br>○体育の授業において、全学年でリズムジャンプとリズムに合わせたトレーニングを実施した。<br>○授業におけるICT活用を推進した。タブレットの活用状況について、調べ学習等ではほぼすべての授業で活用できた。<br>○個々の教育的ニーズに応じた合理的配慮の提供に取り組んだ。<br>○中学校給食を通じて食育を推進した | ○「めあて」と「課題」の提示は、すべての授業で、ほぼ実施できた。<br>○「コラボるタイム」による協働的な学習を推進することができた。<br>○授業デザインシートの活用を通じて、単元を通じて指導計画を立てるよう取り組んだ。<br>○コグトレの取組は、生徒の認知機能を高め、学びの土台を固める効果のあることが確認できた。<br>○授業のオンライン配信は、常時行った。<br>○授業におけるタブレットの活用状況について、調べ学習等ではほぼすべての授業で活用できた。 | ○協働的な学習を学力向上にいかにつなげるかが重要な課題となっており、研究を進めていく。<br>○授業における「課題」の設定を、「中心的な発問」の中に設定できるように研究を進めていく。<br>○タブレット等の活用について、意見交流や創作的な活動といった発展的な内容については課題となっており、授業におけるICTの活用方法をさらに深めていく。<br>○コグトレの取組を授業改善にどのようにつなげていくか、研究を進めていく。<br>○生徒の学習習慣が身につくような宿題・課題の出し方について研究を進めていく。 |          |

| 2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る   |   | 評価Ⅰ(教職員)   | 評価Ⅱ(校園長) |
|---|---|--|----------|
| (1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る<br>(2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める<br>(3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める<br>(4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る<br>(5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める |   | 3.2  | 3.5      |
| 取組  | 成果  | 課題と改善策   |          |
| ○道徳教育の充実<br>・「道徳科の教科書」(29h)及び「心かがやく」(6h)における本校での実践事例を積み上げた。<br>・道徳の授業スタイルの確立を目指した。<br>○生徒指導・生徒支援・不登校対策等について【共通認識】<br>・組織対応を行うとともに、生徒に対して、今日一日の生活を納得させて帰すことを重視した。<br>・温かさの中に毅然とした厳しさのある生徒指導に努めた。<br>○生徒理解に基づいた対応を推進した。<br>○生徒の居場所づくりの推進(関係機関や地域との連携を進めた。     | ○「道徳科の教科書」(29h)及び「心かがやく」(6h)については実施できた。<br>○道徳について、教員は、生徒からの意見や考えを引き出しながら問い返しを行い、議論等を深めていく授業づくりができた。<br>○生徒指導について、生徒支援の視点からの取組が広がってきた。<br>○不登校対策について、教育支援室との連携、近隣公園での面談、校内別室の活用など段階的対応により、不登校生徒との接点を大切にしたい指導と支援を行った。<br>○地域のこども食堂等との連携を進めた。 | ○道徳について、本校における道徳の授業スタイル確立に向けて引き続き研究を進める。<br>○生徒指導について、誰一人取り残さない視点を持った支援を充実させていく。<br>○生徒理解のスキル向上に向けて、取り組みを加速させる。<br>○学校運営協議会の設置を踏まえ、地域と連携した子どもの居場所づくりを推進する。 |          |

| <b>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</b><br>(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る<br>(2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める  |  | 評価Ⅰ(教職員)   | 評価Ⅱ(校園長) |
|--|--|--|----------|
|  |  | 3.1  | 3        |
| 取組   | 成果   | 課題と改善策   |          |
| ○北中だより「新樹」の発行と地域の掲示板への掲示を行った。<br>○学校ホームページの定期的更新と家庭・地域への情報発信を行った。<br>○学校運営協議会の立ち上げに向けた準備を進めた。<br>○校務分掌の平準化に努めた。<br>○校務PCにおける共有フォルダを整理し、校務の効率化を図った。<br>○毎週水に会議集中日・ノー部活デー・自己啓発デーを設定し、100%の実施を目指した。 | ○北中だより「新樹」の地域への発信や学校ホームページの定期的更新(週3回以上)は実施できた。<br>○共有フォルダの整理は完了し、今後、作成したデータ等はそれぞれの分掌フォルダに保存をしていく。<br>○会議集中日とノー部活デーを合わせて実施することで、水曜日の定時退勤はほぼ100%実施できた。 | ○急な生徒指導のために遅い時間まで業務が続くことが多々見られた。予防的な生徒指導の推進とともに、対応時間の検討も進めていく。<br>○今後もICTの活用や共有フォルダの活用により、効率よく業務を遂行できる環境の整備を進めていく。<br>○令和5年度から学校運営協議会を立ち上げるため、地域とともにある学校づくりをより一層進める。 |          |

| <b>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</b><br>(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る<br>(2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る                                       |  | 評価Ⅰ(教職員)   | 評価Ⅱ(校園長) |
|--|--|--|----------|
|  |  | 3.2  | 3        |
| 取組   | 成果   | 課題と改善策   |          |
| ○登下校の安全確認及び見守りを実施した。<br>○薬物乱用教室を実施した。<br>○自転車安全教室を実施した。<br>○スマホ安全教室を実施した。<br>○生徒会のスマホサミットへの参加とスマホルール作りを実施した。<br>○地震及び津波等の発生を想定した防災訓練を実施した。 | ○登下校の見守りは、教員の当番制の実施より日常的に行った。<br>○自転車安全教室、スマホ安全教室、デートDVの講演会、保護司会との連携した事業(挨拶運動、薬物乱用防止教室等)は計画通り実施できた。<br>○生徒会執行部が参加した「スマホサミット」「社会力育成事業夏季研修会」の成果を学校全体に広げ、専門委員会の活性化を図った。<br>○「1.17は忘れない」地域防災訓練では、3年ぶりに地域住民の参画を得た訓練を実施することができた。 | ○SNSの適切な利用をはじめとする情報モラル教育については、生徒会活動とも連動させて生徒自身が考える機会を増やしていく。<br>○関係機関と連携した安全教育等は、引き続き実施していく。<br>○防災訓練について、より実践的で緊迫感のある訓練になるよう、場面設定の工夫を行う。<br>○災害時帰宅グループや帰宅ルートの確認を再度行い、安全に帰宅するための準備を行う。 |          |

| 教育目標   |   | 評価Ⅰ(教職員)  | 評価Ⅱ(校園長) |
|--|---|---|----------|
|  |   | 3   | 3        |
| (1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開<br>(2) 教育目標の具現化と指導の充実   |   |   |          |
| 取組   | 成果  | 課題と改善策  |          |
| <b>【学校教育目標】</b><br>○自ら学び、自他の生命を大切にする生徒の育成<br>○社会に貢献できる生徒の育成<br><b>【めざす生徒像】</b><br>○意欲高くものに打ち込める生徒<br>○建設的な意見を持つことのできる生徒<br>○礼節を重んじ、時・場所・場合に合わせた行動や言動のできる生徒<br><b>【めざす教師像】</b><br>○変化、挑戦、創造の精神を重んじる教師(向上力)<br>○生徒の成長や進歩を共に喜ぶ教師(共感力)<br>○チーム北中の一員として、組織を大切にする教師(組織力) | ○本年度は、教育目標の中でも、特に「社会貢献」の視点を重視した。<br>○生徒の主体性を引き出すために、機会のあるごとに、「学校は生徒の行動で変化させることができる」「建設的な意見を持つことのできる生徒」の2点を訴え続けた。<br>○生徒会を中心として、「意見を出すときには具体的な方法も出す」という方針を出して議論が行われた。本校の目指す生徒像にある「建設的な意見を持つことのできる生徒」の実現に向けて、大きく飛躍した。 | ○令和5年度については、つぎのことを重点的に取り組む。<br><b>【学校教育目標】</b><br>・社会に貢献できる生徒の育成<br><b>【めざす生徒像】</b><br>・建設的な意見を持つことのできる生徒<br><b>【めざす教師像】</b><br>・生徒の成長や進歩を共に喜ぶ教師(共感力)<br>・チーム北中の一員として、組織を大切にする教師(組織力) |          |

| 研究テーマ  |   | 評価Ⅰ(教職員)  | 評価Ⅱ(校園長) |
|--|---|---|----------|
|  |   | 3.1   | 3.5      |
| (1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開<br>(2) 研究テーマの具現化と指導の充実                           |   |   |          |
| 取組   | 成果  | 課題と改善策  |          |
| ○「授業改善3つの視点」と「協働的探究学習」は、ともに親和性が高いため、同時並行的に推進した。<br>○研究テーマ:「主体的に学習できる“課題”の工夫」 | ○生徒が主体的な学習に取り組むための“課題”を、授業における「中心的な発問」の中に設定するよう努めた。<br>○授業デザインシートを活用することで、単元を通して生徒にどのような資質能力を身につけさせるのか見通しを持った指導計画を立てるように取り組んだ。<br>○「ねらい」の提示、授業のまとめとして各時間の振り返りを確実に行うことは、昨年度から引き続き行った。<br>○「コラボる・タイム」の活用を進めた。<br>※各教科のみならず、道徳科、学活、総合などあらゆる場面で活用できた。 | ○令和5年度の研究テーマは、「「課題への取組におけるコラボるタイムの活用・充実(案)」を予定している。<br>○つぎの3つの事項に書かれている資質能力の育成を目指した指導を研究する。<br>①人の役に立つ人間になりたいと思える生徒の育成<br>②自分と違う意見について考えるのは楽しいと思える生徒とその集団の育成<br>③課題の解決に向けて、生徒が自分で考え、自分から取り組むことができる授業づくり |          |

## 学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい  
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる  
1:取組が不十分である

| 学校関係者意見等   | 評価Ⅲ |
|--|-----|
| <p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <p>・「コラボる・タイム」による協同的な学習により、他者の意見を取り入れるなど、柔軟な考え方をもち、他者への理解から学力向上することを期待している。<br/>・オンライン配信による授業など、教室に入れない生徒も教室の雰囲気を知ることができ、そこから学校へ来ることができるきっかけとなってくれればと思う。<br/>・調べ学習にとどまらないタブレットの効果的活用が進むことを期待する。<br/>・授業への取組が成績につながってほしい。</p>  | 3.5 |
| <p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>・道徳教育を充実させ、考える力をつけることにより、他者への思いやりにつながることを願う。<br/>・関係機関との連携により、連続7日以上欠席者が減っていることは望ましい。<br/>・「居場所」を求めている子どもと連絡が取れるよう、引き続き尽力願いたい。<br/>・生徒には、自分や他人の学び・成長を少しつつでも実感してもらいたい。<br/>・道徳教育を通して、他者を理解し、心豊かに育ててほしい。</p>   | 3   |
| <p>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <p>・「学校だより」を地域の掲示板に貼ることで、少しでも学校への関心を深めてもらう効果があると思う。ホームページは自分から身に行かないといけないので、子どもを持たない方はなかなか見ないが、引き続き地域への発信を願いたい。<br/>・一部の職員に負担がかかることのないよう、共通認識できるフォルダは有効だと思うわれる。<br/>・教職員の業務改善の取組が進むことはとても大切だと思う。<br/>・北中だよりや学校ホームページで、今回保護者に伝えたいことをスローガンのように大きな文字で目立つように書いてみると心に残るのではないかな。</p> | 3.5 |
| <p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>・身近にあるSNSの危険をどのように回避すればよいか、子どもたちが自ら考えるスマホサミットの取り組みは続けていただきたい。<br/>・登下校の見守りも含め、学校は常に安全な場所であってほしいと願う。<br/>学校・家庭・地域が共通の防災意識を持つことが必要で、共有できるものがあるといいと思う。</p>   | 3.5 |
| <p>■教育目標</p> <p>・「社会に貢献できる生徒」について、子供たちが考えて発信できる人に成長できるよう、引き続き様々な取り組みを続けていただきたい。<br/>・コロナ禍での取り決めが緩和され、取り組み方も変わってくるかもしれないが、目標の達成をお願いしたい。</p>   | 3   |
| <p>■研究テーマ</p> <p>・子どもたちの成長に向けた教育活動を期待している。<br/>・研究テーマの達成が生徒の学力向上に繋がることを期待している。</p>   | 3   |
| <p>■その他</p> <p>・学校運営協議会の設置により、各方面との連携が深まり、学校の取組の改善に役立つことに期待する。</p>   |     |
| <p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>  | 評価Ⅳ |
| アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か  | A   |
| 自己評価の結果の内容は適切か   | B   |
| 自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か   | B   |